



みなと

みなと 38号 2012年12月1日

兵庫県声の図書赤十字奉仕団

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-4-5

日本赤十字社兵庫県支部内

(Tel)078-241-9889 (fax)078-241-6990

代表者 淡路 忠義

編集者 久保田加奈女

第22回 交流会



前日から激しい雨が降り始め大変心配しましたが、11月23日(祝日)小雨の中、無事にリスナーの皆様をお迎えすることが出来ました。

12時に、司会の菅原宏美さん(青年)の呼びかけに交流会がスタートし、淡路委員長の挨拶、リスナー代表の浅野正三さんからは「これからはテープからCDに変わっていくけれども、リスナーの一人として仲間に入れて頂きたい。今日は、楽しく過ごさせて頂きます。」と嬉しいお言葉を頂戴しました。引き続き、角谷奉仕課課長から学校講習での子供達の生き生きした様子をお話して頂きました。

今回はリスナー56名、同行者42名、盲導犬2頭、団員65名、支部から角谷課長・岡嶋係長のお二人、合わせて165名が参加し、彩りの良い幕の内風のお弁当とお菓子に舌鼓をうち、楽しい昼食となりました。午後からのイベントは、楽遊クラブ銀雅の銭太鼓の演奏です。上手にリードして頂き、リスナーさんも実際に銭太鼓を手にとって、一緒に演奏しました。リスナー歓談後、今度は男性5名女性1名の甲南大学OBロデオワゴンボーイズの皆さんによるカントリーウェスタンの演奏を楽しみました。最後に、東日本大震災復興支援ソング「花は咲く」を、ロデオワゴンボーイズの演奏をバックに全員で合唱し、今年度の交流会を終えました。実行委員長海老名さんを始め、団員の皆様お疲れ様でした。

久保田加奈女

第22回リスナー交流会を終えて

前日の設営中から明日は雨だろうなどの思いがあったものの、当日は雨小僧が時々イタズラをする程度であったことは幸いでした。当日は各グループの方々の任務遂行のご尽力を頂き、交流会を予定通り進めることができました。

テーブルの配置は去年と同様の形をとり、食事をしながらも歓談ができるように配慮。今回は、今話題の曲をみんなと合唱して終えようと目論み、二つのイベントの間にリスナーとの歓談を挟みました。皆さまとの合唱は思惑通り行かなかったかなと思っております。しかし、あまり馴染みのない銭太鼓の演奏は、話術の楽しさや、楽器を手に触れ、一緒になっての協奏と、場を盛り上げて頂けました。カントリーウエスタンは馴染みの曲は少なかったものの、テネシーワルツは江利チエミの声を思い出させてくれました。

歓談の時間も予定通り時間を取れたのですが、イベントの準備が邪魔になったとの声もあり、反省すべき点もあります。

来年度は50年を迎えます。記念すべきリスナー交流会になろうかと思えます。皆さまに楽しんでいただける交流会を開催していただけますよう祈念いたします。

最後になりますが、実行委員の皆さま、各グループの皆さま、交流会運営にご協力頂きましたことにお礼申し上げます。

交流会実行委員長 海老名 巖 (青年グループ)

2012年交流会会計報告

収 入		支 出	
日赤交流会助成金	250,000	弁当	148,000
	49,000	お茶	18,144
会費 @500×98		お菓子・みかん	58,985
リスナー 56名		チャーターバス	40,000
同行者 42名		@10000×4 (2台×2往復)	
		演者交通費	20,000
		弁当・お菓子試食	9,113
		雑費(リボン・振込手数料・タクシー)	4647
計	299,000	計	298,889

残 高	111
-----	-----

デイジー班

☆マザーチーム

「デイジー図書発行5年を振り返って」

手探りで始めたデイジー図書も「日赤声のアルバム」として発行してから、はや5年が過ぎ、テープ図書をお送りしていた200名ほどのうち30名ほどから出発しましたが、リスナーの方の積極的なご利用により、今では150名を越える方々のご利用というまでになりました。デイジー編集作業の方もそれぞれ研鑽を積み、なんとかリスナーの方のご要望に応えられるよう、「声のアルバム」や「単行本」作成に励んでいます。

「日赤声のアルバム」作成にあたって、マザー班は、今まで毎月6~8種類のテープとして送られていたものをまず、それぞれ担当グループに、デイジー図書に仕上げてください、これを1枚のCDに作成する仕事を行なっています。出来上がった後モニターをして発送グループの方に託しています。これらの作業は、大体第3月曜日午前に行っています。

デイジーミーティングでは、「声のアルバム」の視聴を担当分けをして行い、少しでもそれぞれの内容の音量・その他、バラつきがないかなど検討課題を話し合っ、より良い図書を作っていけるよう務めています。

団員の皆様も、パソコンへの直録音など多くの方が習得され、音量・音質等のばらつきも少なくなり、当初より聞きやすい図書となったのではないかと思います。今後も、みんなで力を合わせて、より良い図書が出来ることを願っています。

片山恵 (YWCA)

☆発送チーム

「デイジー発送作業について」

デイジーの発送作業は、ことばの花束G・ともしびG・そよかぜGが担当しています。「日赤声のアルバム」

のマザーCDからコピーCDを作成し、パソコン・プレクストーク・mp3対応のCDプレーヤー等でモニター

チェックをおこなったあと、リスナーさん宛に発送をしています。他に、5ヶ月に一度CDの全消去、CDケースに点字ラベルの貼り付け、CDの清拭、リスナーカードのチェック、宛名カードの作成をおこなっています。簡単な作業ですので、興味のある方は、ぜひお手伝いをおねがいたします。



平郡孝美(そよかぜ)

☆受け入れチーム

「デイジー班受け入れチームではや5年！」

ボランティアルームのほぼ中ほど窓際にあるバスケットのなかの赤枠付き宛名カードの緑の袋。中にはリスナーさんより返却された“声のアルバム”のCDが入っています。そのCDを袋から出して次月号のために決められた場所に置く。きわめて単純な作業です。が、始めてみるとそれなりに奥が深いところがちょこちょこっとですがあるものなのです。

“声のアルバム”がお役目を終えて返却されてくると、CDの傷、汚れ、次回にまた使用できるかなど、状態をチェック。ケースが割れていることもしばしば。ひびなど小さくても、リスナーさんにとって怪我のもとになるようなものはないかなど、安全で快適に楽しんでいただけるよう注意をはらいます。テープよりはるかに容量の大きいCDも数カ月で一杯になり、消去が必要なものを選び分ける。大多数のリスナーさんからは、ほぼ毎月次月号発送までには返却されます。テープと違ってすべての月刊誌を楽しんでいただける為か、数ヶ月かかることも多々あります。数ヶ月分と一緒に返ってきたり、また時にはケースだけ、他所のCD、などなど。

スタートしたころにはリスナーさんもPlextalkにまだ不慣れで「CD聞こえません」「やっぱりテープがいいです。」などというお便りが一緒のこともあります。お礼、感謝のお手紙が入っていると“よかった”と感じる瞬間です。尚、希望図書の御依頼、住所変更など、担当グループへの速やかな連絡も必要です。2008年デイジー班のミーティングで役割分担が決まりました。“あかりの会・はあもにい・そしてあけぼの”が受け入れチーム担当。

退団されましたが、あかりの会の青野さんが先頭に立たれ、スムーズにことが運ぶ方針、方法が確立するまで何度かミーティングを重ねました。

そして、カードとノートスタイルでスタートしました。数ヶ月後には受入数も徐々に増えてきました。毎月一斉発送されたものが順次返送されてくる返却状態を記録把握するにはそれなりに管理体制になりました。受け入れ作業は、リスナーさん毎、何月号が何枚、破損、傷が何枚、全部で何枚という事だけでなく、返却状況と利用可能なCDの現状が一目で把握でき、効率のよい作業ができるようにと“声のアルバム(DAISY図書) 発送・受け入れチェックリストと“集計表”が出来ました。消耗品とはいえCDもケースも無尽蔵にあるというわけでもありません。CDもケースも何度も使用するため、特にこのチェックは状況判断に役立っていると思います。

スタートした時は役割チームを何年か毎にシャッフルをとのことでしたが、このチーム内のリズムも居心地もよく、そのままで時が過ぎ早や5年です。で、受け入れチームも袋からCDを出し、抜き取った宛名カードとセットにするなど作業の手つきも良くなり、かなり洗練されてまいりました？他チームとお互いの立場に立ち、合理化・簡素化などの話し合いも出来るようになりました。(にっこり)

多くのリスナーさんに楽しんでいただける協力体制がより一層しっかりしたものになっていると感じる今日この頃です。

孝橋多賀江（あけぼの）



☆機材チーム

初めに、大多数の方々が直接録音を始められ、ナレーションの録音品質が格段に高まり、リスナーさんにお届けする単行図書、及び音声雑誌が大変聞き易くなりましたことは、ご同慶の至りでございます。

これもひとえに、団員の皆様の絶えざる挑戦の賜と敬服いたしております。

現在、奉仕団には音声図書製作用として8台のパソコンがあり、録音用、編集用として稼働しております。そして単行図書、音声雑誌のいずれもが、ご自宅での録音を含め大多数の方はパソコンへの直接録音をされております。特に、単行図書は最初にデジ版が完成し、テープ版はリスナーさんからご要望があれば製作することになっています。

カセットテープへ録音し、頭出し、つなぎ編集等でマザーテープを製作する操作の微妙さ、困難さを振り返りますと、早、隔世の感を禁じえません。

大変便利になった録音・編集であります。ここに新たな問題が出て参りました。いわゆるウィルスの脅威であります。

録音開始以降、編集が完了してマザーディスクが完成するまで、多くの場合、録音データはUSBメモリーに格納され、持ち運ばれます。そして、何台かのパソコンに接続され、録音の継続、編集がなされますが、その内1台でもウィルスに感染していると、それ以降に接続したパソコン全てが汚染される可能性があるということです。

ボランティア室、録音ブースにあるパソコンにはウィルス検出ソフトをインストールしており、定期的に更新していますが、更新のタイミングによっては、例えば先月に全世界に蔓延した新しいタイプのウィルスは検出できないかも知れません。

ウィルスの被害については多くの報道でご存知と思いますが、パソコンの全てのデータが消去されてしまったり、データが流出したり、またパソコンが遠隔操作されて犯罪に利用された事件は耳に新しいと思います。

機材チームとしましても、なるべく頻繁にウィルス検出ソフトの更新を実施し、皆さんに安心して使用していただけるよう努めたいと思います。

併せて、パソコン録音をされる皆さんにお願いしたいことは、録音データが格納されているUSBメモリーを接続する可能性があるご自宅のパソコンは、できればウィルス検出ソフトをインストールしていただき、常に最新の定義ファイルが反映されるようにしていただきたいと思います。

機材チームとして、皆さんに使いやすい録音環境、編集環境を整えて行きたいと思っております。

併せて、皆さんのご理解とご協力をお願いいたします。

富沢ナオキ（ことばの花束）



点 字 班



点字班、ひとつひとつの活動を積み重ねて・・・

「交流会でリスナーの皆様に歓迎カードをお渡ししたいですね」と、点字班例会で提案があり、これを形にするべく歓迎の言葉や、墨字と点字のレイアウト、折り紙などを皆で話し合いました。

赤いチューリップの花をレースでくるんだ可愛い折り紙50枚が、折り紙サークル「紙ふうせん」から届けられ、早速歓迎カードの見本を作り、交流会実行委員会に提案、承認を得て、9月例会から作成に取り掛かりました。

歓迎カードは点字用紙四つ切サイズを使用しました。表の面は、左側の上に歓迎の言葉を点字で書き、下に墨字を貼付しました。右側に折り紙、折り紙の下には“チューリップ”と点字で書き、右肩にはピンクのリボンもつけました。(以前にメッセージカードを触読してくださったリスナーさんから、「カードは、点訳本を読むときのしおりにも使いたいののでリボンをつけて欲しい」とのご希望がありました)

さらにカードの裏面いっばいに、弱視の方にも読んでいただけるように、墨字を拡大したものを貼り付けました。参加リスナーさんが50名を超えたことを嬉しく思いながら、追加の折り紙15枚は、メンバーが紙ふうせんからいただいた折図を見ながら折りました。

交流会は11月、チューリップは春の花。季節外れでは？という意見も出ましたが、“花の部分が触って分かりやすいのでは”ということと、また“レースでくるんだ赤いチューリップが可愛いのでは”ということで決めました。

交流会の会場で、また帰宅後に数名のリスナーさんから、「歓迎カードはとても嬉しかった。ありがとう」「チューリップをレースでくるんだ折り紙が素敵でした。どなたが折られたのですか」

さらに、「プログラムも歌詞も点字にしてくれてありがとう。おかげで皆と一緒に歌うことができました」などのご感想をいただいたことが、点字班メンバーにとって何より嬉しいことでした。

歓迎カードを配ってくださったり、カードの説明をしてくださった皆様、大変お世話になりました。ありがとうございました。

学校点字講習会も11月は3回。12月にも3回予定されています。メンバーが手分けして講師やサポーターで参加。子どもたちに楽しく点字を覚えてもらえるよう授業を工夫して行なっています。

12月20日に、「子どもたちへのメッセージ集2012」点訳本6冊を、朗読担当の皆様が録音されたCDとともに、神戸市人権推進課に納めます。今年最後の活動を笑顔で終えることができるようメンバー一同力を合わせたいと思います。

福井克子 (はあもにいグループ)



2012・11・24

日赤声奉の朗読・音訳を見直す会では、朗読・音訳に必要と思われることを発信していきます。
今回は、読み方Q&Aです。

(1) 数詞「10」の読み方

*NHK放送文化研究所編「NHKことばのハンドブック第2版」(声奉蔵書にあります)より
第5章 数字の発音 & 95ページ「10本の発音」

*インターネット「音訳の部屋」より・・・記号・単位28 数詞・助数詞の読み方
を参考にしてください。

(2) 「(笑)」の読み方

選択肢として、「読まない」もある。

聴衆が笑っている場合は、わらいと読んでも良い。

自分が笑っている場合は、笑いながら言う。笑い声を入れても良い。

かっこわらいとは、読まない。

(3) 助詞「の」の読み方

尾高のものに「の」がつくと、平板になりますが、例外があります

例：男の、花の

例外：三つの、次の

*三省堂「新明解日本語アクセント辞典」(声奉蔵書にあります)より
付録 71～助詞が名詞についたもの(表5)
を参考にしてください。

ボランティアルームのメールボックス付近に、透明なボックスを置いています。

読み方カードを入れていますので、読み方についての、疑問質問提案を記入してくだされば、
見直す会で検討してゆき、まとめます。よろしく願いいたします。

神坂順子



朗読・音訳を見直す会より

日赤兵庫県支部のボランティアルームを訪れると、いつもどなたかが、なにかお仕事をしておられます。大きな窓の明るい雰囲気の中、時々笑い声がこぼれて、それぞれが、進んで楽しく仕事に励んでいるという感じがします。

声の図書を作っていくということは、文書を声に出して読んでいくということだけでなく、ご存知のように、様々な作業が必要です。デジタル録音の時代に入っていく中で、わたしのようなアナログ人間にはついていけないようなことがたくさんあります。そんな中、みなさん、それぞれの能力に応じて、自分に合った仕事を見つけて生き生きと活動されているように見受けられます。活気のある活動は、必ず発展していく、と頼もしく思っております。

とはいえ、やはり中心になるのは、「読む」ことです。いくら雑音なく、音量もちょうど良くそろっているきれいな録音でも、読み方が稚拙で、聞きにくかったら、何の値打ちもありません。その部分のレベルアップを図るために発足した当会ですが、三回をひとシリーズにした勉強会を企画実行してまいりました。現在、第3シリーズが進行中です。第一、第二シリーズで、基礎的な所を押さえ、今回は実習の段階に入ったという所です。「朗読」と「音訳」の違いは？という質問が出たりして、団員の方々の経験も勉強の度合いもまちまちですが、佐伯先生がめいめい録音してきた課題を聞きながら講評して下さり、いろいろ気づいたり、納得したり、濃い時間を過ごさせていただきました。残りの勉強会を楽しみにしております。

読んだものは、そのままとかたちに残りません。録音をしたものを自分で聴いてみると、いろいろな癖や、問題がはつきりして、とても勉強になります。そして、同じ課題を他のの方が読まれたものを聴き、それに対する指導を聴くということは、さらに勉強になると思います。この機会を、多くの方が活用されることをお勧めいたします。

阿部陽子（はあもにい）



※朗読勉強会 日赤・7階会議室

講師：佐伯かをる先生

1回目・・・10月22日（月）

49名参加

2回目・・・11月26日（月）

42名参加

3回目・・・12月20日（木）

佐伯先生の勉強会（1回目）に参加して

今回は皆が持ち寄ったメモリー・テープの中で、13名の方の録音を聞かせていただき、先生からのお話をうかがいました。

日頃聞けない方々のお声が聞けて、新鮮でとても勉強になりました。「よくわかるように伝えること」の大切さを改めて感じました。80歳を越えていらっしゃるとはとても思えないお声、お姿の佐伯先生は、今でもほっぺたの筋肉を鍛えるため「アエイウエオアオ」の発声練習をされていらっしゃるそうです。

「歯を大切にすること！」も大事だそうです。私も三日坊主にならないように、始めなくちゃと思いました。佐伯先生、13名の皆さま、朗読・音訳を見直す会の皆さま ありがとうございます。

智福優子（こすもす）



リスナーお便り

松本民雄さんより

花時計6月号(神戸YWCA)によせて

いつも楽しい情報をお聞かせいただきありがとうございます。

今回は、酒蔵を見学されたのですね。私は、数年前に、神戸市灘区の「ホールオブホールズ六甲」というオルゴール館を見学する前に、白鶴酒造を見学したことがあります。

そこは、私たち、視覚障害者のために説明をしていただきましたし、さわれる物は触らせて頂きました。

また、雰囲気盛り上げるために、テープではありましたが、酒屋唄が静かに流れていたのを覚えています。それから、白鶴酒造では、酒の試飲もできました。今回、見学をされた酒蔵は、私たち、視覚障害者が行っても、説明していただけるのですか？また、さわれる物は、ありますか？

香山良樹さんより

花時計8月号によせて

8月になると、ラジオで被爆体験のお話をよく聞きます。

あまりにも、ひどい話で言葉ありません。なぜ、戦争はなくなるのでしょうか。

今も世界のいたる所で、紛争・戦争状態のところがありますね。日本は平和ぼけしていると言われてます。心に残るお話、ありがとうございました。

松本民雄さんより

花時計11月号によせて

いつも楽しい情報をお聴かせいただきまして、ありがとうございます。

東ヨーロッパを旅行されたのですか？私は、東ヨーロッパというと、あの辺りでは「ナイ」という楽器を思い出します。この「ナイ」は、パンパイプ「排笙(はいしょう)」とも言われる楽器で、これは、亜細亜でいうと中国にあるそうです。日本には、これが中国から正倉院に輸入されて、この楽器「排笙」は、ここだけしか残っていないそうです。先ほどの「ナイ」の奏者ですが、ルーマニアでは「ゲオルゲザンフィル」が有名なんだそうです。

東ヨーロッパでは、水は日本に比べて美味しかったですか？

それと、東ヨーロッパでは、テレビはご覧になられたのですか？



中島百合子さんより

花時計11月号によせて

いつも毎月、楽しみにしています。

気に入った番組は、何度も聴き直しています。

料理番組も、時々は入れてほしいです。

本当に楽しみにしていますので、これからもよろしくお願いします。



花時計



7月号（こすもす）

- ・アンネのバラの教会 インタビュー
- ・野の花だより
- ・百人一酒「ヤシ酒」
- ・単行図書のご案内
- ・おたよりコーナー

11月号（はあもにい）

- ・ボイジャーオブザシーズ号がやってきた！
- ・東ヨーロッパ旅日記
- ・東日本大震災復興支援ソング「花は咲く」
- ・新島八重ってどんな人？
- ・ねぶた祭り見物
- ・デイジー単行図書のご案内

8月号（あかりの会）

- ・日赤ドクターの健康講座「薬の飲み方について」
- ・車いすのアームレスリング選手権大会
- ・特攻隊員の手紙 六話
- ・新刊のお知らせ
- ・リスナーさんからのお知らせ

12月号（神戸YWCA）

- ・インタビュー 住田育子さん
- ・地図に隠れた意外な事実
- ・旅行記エジプトの不思議
- ・鉄道唱歌でめぐる東海道の旅
- ・新刊図書案内
- ・リスナーさんからのお便り

9月号（ともしび）

- ・神戸のお茶の話あれこれ
インタビュー 前祐二さん
- ・新しいデイジー図書の案内
- ・「広島に生まれて・・・終戦を迎えた67年目の夏」
- ・「この夏 図書館で」
- ・「親が子に伝えるもの」 佐藤愛子
- ・お便り

10月号（ことばの花束）

- ・出雲大社 10月あなたの運命が決まってしまうかも
出雲大社の催事と神話一つ
- ・朗読 向田邦子作「森繁の重役読本より」
- ・交流会のお知らせ
- ・開業100年の新世界・通天閣のそぞろ歩き
- ・小さい秋見つけた
- ・おしらせ



2013年度担当月

1月	あかりの会
2月	ともしび
3月	ことばの花束

単行図書検討会

いつも単行録音図書制作にご尽力くださりまして有難うございます。昨年度は、リクエスト本・10冊、単行図書検討会の推薦本・6冊、団員の皆さんの自選本・4冊をCD化することが出来ました。また、今年度は、4月～11月で、リクエスト本を6冊、推薦本を4冊、自選本を4冊、CD化しました。お忙しい中、録音、校正、編集に携わってくださいました皆さんにお礼を申し上げます。

単行図書検討会は、毎月第2木曜日に例会を開いて、録音する本を選び、単行図書の録音、編集の状況を確認しています。その結果を単行通信に掲載して、ダビング機の横のロッカーの扉にはり出しております。単行通信の一番上の欄が「録音希望図書」になっており、書名の横に、朱字で大きく「募集中」と書いて、録音者を募集しておりますが、応募者が少ないのが現状です。応募者が無い時は、こちらからお願いして録音していただいておりますが、どうしても限られた方たちにご負担をおかけしてしまい、心苦しく思っております。団員の皆さんで、単行本の録音にご関心をお持ちの方がいらっしゃいましたら、お気軽にお申し出ください。とくに、リスナーさんからのリクエスト本に関しては、できるだけご希望にお応えしたいと思っておりますので、宜しくお願いいたします。

今年2月に、「デイジー単行図書制作マニュアル」をお渡しして、このマニュアルに沿って単行図書を録音して下さるようお願いしておりますが、今年7月に、マニュアルの中の「単行図書録音手順」の「校正」の部分を変更いたしました。デイジー校正を含め、第3次校正までしていただくことになっておりますので、ご確認をお願いいたします。

なお、単行録音図書やマニュアル等に関して、ご質問、ご提言がございましたら、どしどし単行図書検討会までお寄せください。お待ちしております。

池内早苗（こすもす）

